

尚家文化財 国宝として後世へ

7月より那覇市歴史博物館で順次公開

美御前御揃—みわんまえおそろい—
中央に金銀器、右側に漆器の御籠飯を左側にはビーズで飾られた錫瓶をそれぞれ漆器の足付盆にのせた、儀式用の三御飾り、ヌーメーウスリーとも称する。



御絵図帳—みえずちょう—
王府が御用布のために絵師に描かせた、織物のデザイン帳。伝来の7冊には、顔料や染料でカラフルに描かれた緋や緋文様の紙片が、370枚貼られている。



このことにより「那覇市歴史博物館」が、広く市民、県民の皆様に琉球王国の歴史を学んでいただける施設として、さらに権威あるものになることをうれしく思う次第です。

那覇市長 翁長雄志

このたび、本市が所蔵する尚家継承文化遺産の重要文化財「琉球王尚家伝来品」85点及び「附(つ)けたり」王装束及び「よぞくおよび」衣裳関係文書」12冊に、未指定の「琉球国王尚家関係文書」1,154点が追加されて、計1,251点が「琉球国王尚家関係資料」として国宝に指定されることになりました。

国宝指定は、沖縄では戦後初めての指定となり、本市の特別名勝の識名園はじめ、2000年に世界遺産に登録された首里城跡(あごや玉陵(タマウツン))、園比屋武御嶽(ノヒヤンウタキ)などとともに、琉球王国の歴史と文化が特に価値の高い文化財として評価されたことであり、この貴重な文化遺産を守り守り次世代に継承する責務を負っている市では、改めてその責任の重さを感じておられるところだ。

ご承知の通り琉球王国は、15世紀初頭に第一尚氏の尚巴志により初めて統一王朝となり、交易国家として発展を遂げます。15世紀後半、尚門により樹立された第二尚氏王朝は、明治の琉球処分で王国が崩壊するまでの、およそ400年間続きます。琉球王国は、中国や日本、朝鮮さらには東南アジア諸国との政治や交易などを通して、独自の優れた琉球文化を育みました。

しかし、今次大戦では多くの人命とともに王国の文化財も消失しました。幸い、東京の尚家邸には、王国の美術工芸品や文書類が戦禍を免れ遺されました。これら貴重な王家の伝来品は、第二尚氏の尚家第22代当主の故・尚裕(ひろし)氏が、戦前、戦後の長期にわたって私財を投じて守ってこられ、1995年と1996年に本市に無償で贈与していただいたものであります。ここに、改めて故・尚裕氏及びゆかりの方々に感謝を申し上げます。

那覇市では、これら貴重な文化遺産を今後保存・修復を行いながら次世代へ継承するとともに、展覧会や刊行物などを通して広く市民、県民の皆様に活用していただく所存です。

本年7月8日、バレットくもじ4階に「国宝琉球国王 尚家関係資料」の公開施設として「那覇市歴史博物館」を開館すべく準備を進めているところですが、この度の指定はこの事業に大きな弾みとなりました。



緋色地枳形菱雲文花織芭蕉衣裳
—ひいろじますがたひしつなぎもんはなおりばしょういしょう—
身丈119.2センチ 裾51.8センチ 袖丈59.3センチ
紅花で鮮やかに染め、経糸を浮かせて文様を織り出す。芭蕉は硬い繊維で、このような花織りに織り上げるには、高度な技術が必要とされる。王国の織物の名品である。

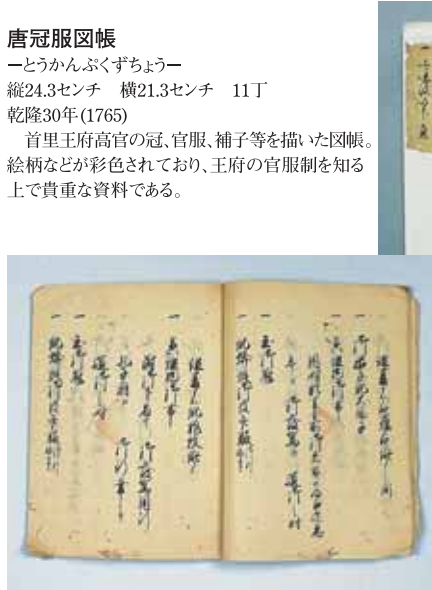


玉御冠—たまのおかんむり—
高18.4センチ 長径21.8センチ 短径14.6センチ 重量605g
琉球国王の正式な冠で、中国の明代には国王即位の際に皇帝から王衣裳とともに与えられたが、後には琉球内で修理や仕立てが行われた。タマンチャーブイとも称する。

紅色地龍宝珠瑞雲文様紅型絹袷衣裳
—べにいろじりゅうほうじゆずいんもんようびんがたきぬあわせいしょう—
身丈133センチ 裾59センチ 袖丈72.5センチ
王権の象徴である龍が宝珠を挟んで向き合う格式の高い文様。龍のうごきやひげには、黒書きの細い線がヒシリと書き込まれ、高度な染め技術をうかがわせる紅型の名品。このような鮮やかな地色を沖縄では「フィルジー」という。



赤地龍瑞雲嶺山文様緋繡唐御衣裳—あかじりゅうずいんけんざんもんようしゅちんとうおいしょう—
身丈132.2センチ 裾112センチ 袖丈68センチ
琉球国王の正式な衣裳で、中国からの冊封使の行事や、正月や冬至など王国の重要な儀式に着用した。ウマントウンとも称する。



丙寅冠船之上上様御装束考帳
—とらのかんせんのときうえさまおにょうぞくこうちょう—
縦24.3センチ 横20.0センチ 25丁 同治5年(1866)
同治5年(丙寅の年)の冊封使渡来時における国王の装束について記したもの。論祭や冊封など公式行事の際、その時々国王の装束を細かに規定した貴重な資料である。



黄色地鳳凰蝙蝠宝尽青海立浪文様紅型絹袷衣裳
—きいろじほうおうこうもりたからづくしせいいかいたつなみんようびんがたきぬあわせいしょう—
身丈130.5センチ 裾69.5センチ 袖丈83.5センチ 鎖大模様
文様を、肩、背、裾の三部分に大きく区切り、鳳凰や海水江芽文、宝珠をはじめ蝙蝠や瑞雲などの中国のおめでたい文様で織られた衣裳。王家だけに許された格式の高いデザインである。



金装宝剑剣 号 千代金丸
—きんそうほうけんこしらえ—
拵:総長92.1センチ 刀身(無銘):刃長71.3センチ
1416年に山北王が中山王と戦って敗北した際に、この刀で自害したとの伝承がある。刀身は日本製とみられるが、作者の系統は明確でない。鞘や柄の兕金などは琉球製とみられ、柄の頭には「大世」の銘と菊文が刻されている。



百浦添御普請絵図帳—ももうらそえごふしんえずちょう—
縦24.2センチ 横19.4センチ 139丁 道光26年(1846)
「百浦添」、つまり首里城正殿の普請(造営)の際の建築図面。正殿の各部分について多数の絵図が収められ、柱の塗り、寸法、加飾の文様、色などが細かに記される。